

このまちの100年

「富山」

富山の城下町は戦国時代頃から発達し、江戸初期に加賀藩から分藩し富山藩が誕生しました。富山藩は製薬・売薬などを推奨し、容器など関連する産業も発達、明治期以降、ものづくりの産業が発展しています。



大正期

木造駅舎だった頃の国鉄(現在のJR)富山駅。昭和20年の富山大空襲で焼失した



昭和5年頃

明治41年に完成した北陸本線の新神通川橋梁。現在は高山本線が使用している



昭和10年頃

中心部にある総曲輪商店街。スズラン灯の間に提灯が並ぶ



昭和10年頃

市営電車自動車待合所が設けられていた西町交差点付近



昭和12年頃

昭和11年に竣工した富山電気ビルディングの前を路面電車が走る



昭和30年頃

昭和27年竣工の富山駅。駅前を富山地方鉄道富山軌道線の路面電車が走る

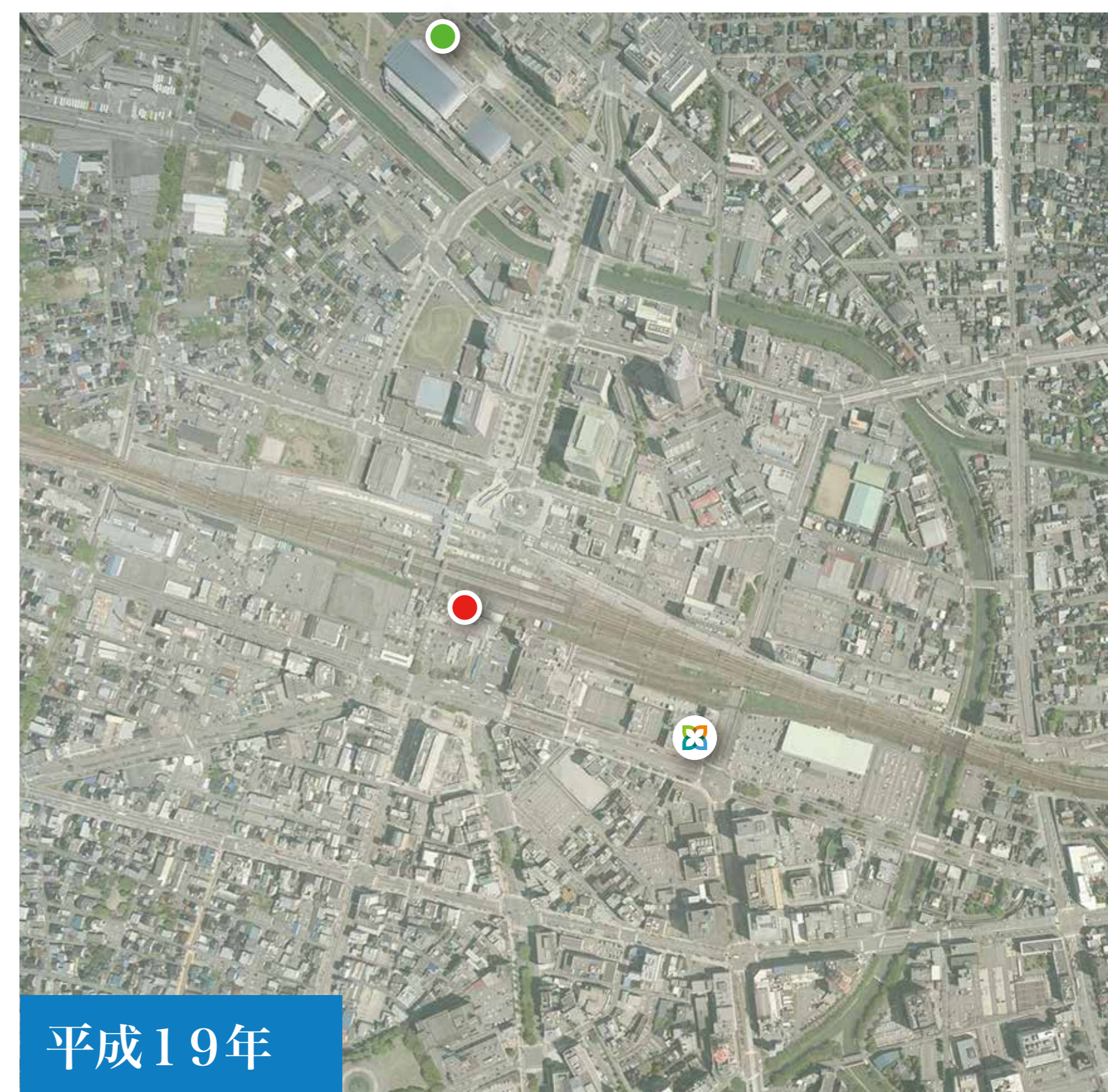
上空からみた富山エリア



昭和21年



昭和52年



平成19年

- : 現在地
- : 富山県自動車学校
- : 富岩運河 船溜/富岩運河環水公園
- : 富山駅

出典：国土地理院「地図・空中写真閲覧サービス」(一部加工)

編集：株式会社コロマチ